

笹取神社

へら

とり

冬

1月寒入大祭

神社ではおきつね様を守り神とし、お揚げと水菜の入った「こんこん汁」を参拝者に振舞い無病息災を願っている。

春

4月桜まつり



夏

7月額灯し

小学生から大人までの人達を書いた約2000点の書が神社の参道から絵馬殿一帯に貼り出され親子ついで賑わう。



せみ取り



秋

標高70mにある笹取神社。第40代天武天皇「壬申の乱」の頃から続くと言われており、290段もの長い階段の周りや境内には、数百本の桜・さつき・紫陽花・紅葉など四季折々の花々が咲き誇り訪れる人々を魅了する。又、ここからは水島臨海工業地帯が一望できるとともに、高梁川に沈む夕日の眺めは最高！

4月の桜祭りでは、桜の花が咲き誇る中、杵つききなこ餅（約40kg）が参拝者に振舞われる。小さな子供達にとって昔ながらの餅つきは初めての体験とあって大喜び。

春夏秋冬地域の人々に親しまれている笹取さまの東の一角に大きな絵馬殿がある。ここを舞台に地域の女性達が地域の大学を巻き込んで2006年から12年もの歳月をかけて作り上げているのがこの絵馬殿である。趣味でくるみ絵を作ったことはあるものの、この絵馬殿の一角に入る縦1.5m、横1.8mの大きな物を作るのは皆始めてで、どんな絵に枚数は？と思考錯誤。結果、場所が神社とすることで「十二支」に決定し毎年1枚づつ制作。今では薄暗い絵馬殿の中も少しづつ華やかさをまし、周りの景色とともに見る人達を元気にしてくれる。2017年の完成が待ち望まれる。

戌酉申



制作した絵馬は1月いっぱい本殿横に掲げられ、その後は東に位置する絵馬殿に奉納。参拝者を温かく見守っている。

